

平群町観光基本計画書

— 第 2 期 —



令和8年4月

平 群 町

目次

序章

第1章 観光基本計画の策定にあたって

- | | | |
|----------------|-------|---|
| 1. 計画策定の趣旨 | | 4 |
| 2. 観光基本計画の位置づけ | | |
| 3. 計画期間 | | 6 |

分析編

第2章 平群町の現状

- | | | |
|-------------|-------|----|
| 1. 立地環境(地勢) | | 8 |
| 2. 観光資源 | | 9 |
| 3. 観光ルート | | 11 |
| 4. アクセスルート | | 13 |
| 5. 広報PR | | 14 |
| 6. 祭事及び催事 | | 15 |
| 7. 平群ブランド | | 16 |

第3章 平群町の課題の整理

- | | | |
|-------------------|-------|----|
| 1. 観光基本計画(第1期)の評価 | | 17 |
| 2. 平群町の資源 | | 18 |
| 3. 平群町の課題 | | 19 |

基本戦略編

第4章 観光基本戦略

- | | | |
|-----------|-------|----|
| 1. 地域ブランド | | 22 |
| 2. 平群ブランド | | 23 |
| 3. 住民との協働 | | 25 |
| 4. 戦略体系 | | 26 |

個別戦略編

第5章 「自然」の展開戦略

- | | | |
|------------------------|-------|----|
| 1. 「平群ならではの」自然の楽しみ方を提案 | | 30 |
|------------------------|-------|----|

第6章 「歴史」の展開戦略	
1. 「歴史人物」を切り口とした広報PR	36
2. 「歴史人物」を切り口とした史跡の紹介	37
第7章 「農産物」の展開戦略	
1. 平群の農のブランド戦略	39
2. 「平群の農」との印象的な出会いを演出	40
第8章 「くらし」の展開戦略	
1. 住民・町内事業者参加による「季節のくらしや食」をテーマとした催しの開催を検討	41
2. 「単線」を楽しみ誇りに思い、魅力化するプロジェクトの推進	42
第9章 「ネットワーク」の展開戦略	
1. 自動車アクセス対策	43
2. 近鉄生駒線4駅からのアクセス対策	45
3. 町内回遊ネットワーク対策	46
4. 広域ネットワーク対策	48
第10章 「広報PR」の展開戦略	
1. インバウンドを意識した情報整備	49
2. 「平群ブランド」ポスター・チラシの発信	50
3. 地域資源を活かしたイベントで話題性を向上	51
4. 産学官の連携	52

巻末資料

資料1 平群ブランド戦略基本方針	54
資料2 平群町民の町に対する意識(主に観光に関する部分)	60

序 章

第1章 観光基本計画の策定にあたって

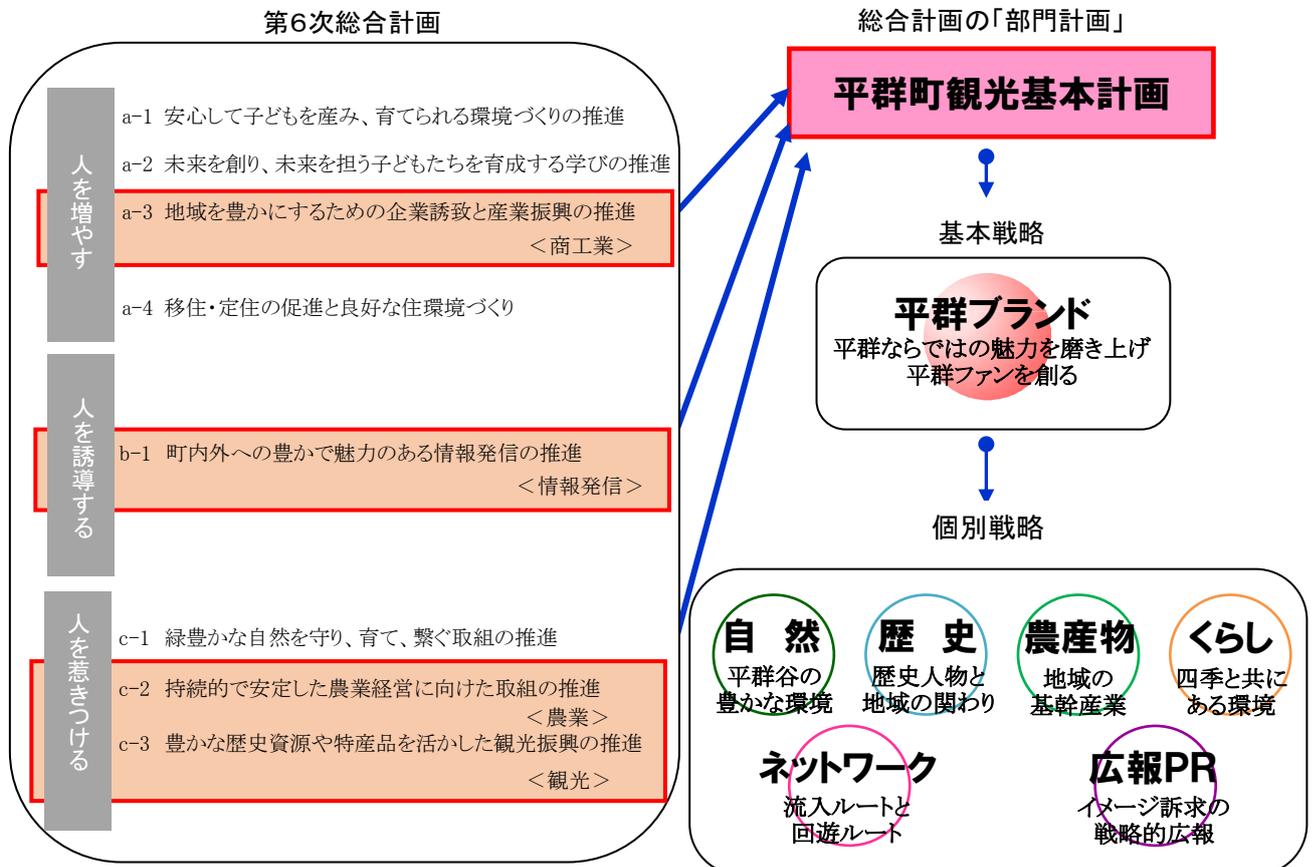
1. 計画策定の趣旨

「平群町観光基本計画」は観光の振興が、交流人口の拡大や地域経済の活性化の柱となり、地域が持続的に発展していくための原動力になるという共通認識のもと、本町における観光のあり方を明らかにするとともに、観光を軸としたまちづくりを戦略的に進めていくための方針とその展開方法を示すものです。

第1期観光基本計画に引き続き、本町を取り巻く環境の大きな変化を見据えつつ、新たに策定された第6次総合計画『人が輝き、未来が輝く、夢あふれるまち へぐり』のもと、本町が持つ自然や歴史といった豊かな観光資源を活かし、住民と共に活力とにぎわいのあるまちづくりを推進するため、観光施策の指針となる観光まちづくりの第2期基本計画として策定しました。

2. 観光基本計画の位置づけ

「平群町観光基本計画」は第6次総合計画の観光分野の個別計画として位置づけられますが、農業、商工業とも横断的連携をもたせており、「産業」を通じて持続可能な地域活性化に繋げていくものです。



■政策体系

総合計画の「部門計画」	基本戦略	個別戦略	展開戦略
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平群町観光基本計画</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平群ブランド 〔平群ならではの魅力を磨き上げ平群ファンを創る〕</p>	<p>【自然】 —P.28～ 平群谷の豊かな環境</p>	<p>①「平群ならではの」自然の楽しみ方を提案 A) 景観ポイントの設定 B) SNS を活用した発信・交流</p>
		<p>【歴史】 —P.34～ 歴史人物と地域の関わり</p>	<p>①「歴史人物」を切り口とした広報PR ・へぐり時代祭りの開催 ・国宝「信貴山縁起絵巻」を発信するイベント開催 ②「歴史人物」を切り口とした史跡の紹介 ・「歴史人物」ゆかりの地を基点とした散策を提供 ・「歴史人物」を活用したホスピタリティの充実 A) 平群町観光ボランティアガイドの会との連携 B) デジタルコンテンツの強化</p>
		<p>【農産物】 —P.37～ 地域の基幹産業</p>	<p>①平群の農のブランド戦略 ・戦略ブランド商品 ・特産品開発 ②「平群の農」との印象的な出会いを演出 ・農業体験の機会の創出 ・地元の新鮮な農産物を食する体験を提案</p>
		<p>【くらし】 —P.39～ 四季と共にある環境</p>	<p>①住民・町内事業者参加による「季節のくらしや食」をテーマとした催しの開催を検討 ②「単線」を楽しみ誇りに思い、魅力化するプロジェクトの推進</p>
		<p>【ネットワーク】 —P.47～ 流入ルートと回遊ルート</p>	<p>①自動車アクセス対策 ②近鉄生駒線4駅からのアクセス対策 ③町内回遊ネットワーク対策 ④広域ネットワーク対策</p>
		<p>【広報PR】 —P.48～ イメージ訴求の戦略的広報</p>	<p>①インバウンドを意識した情報整備 ②「平群ブランド」ポスター・チラシの発信 ③地域資源を活かしたイベントで話題性を向上 ④産学官の連携 ・公共交通機関、メディア、宿泊施設等との連携 ・地元大学との連携</p>

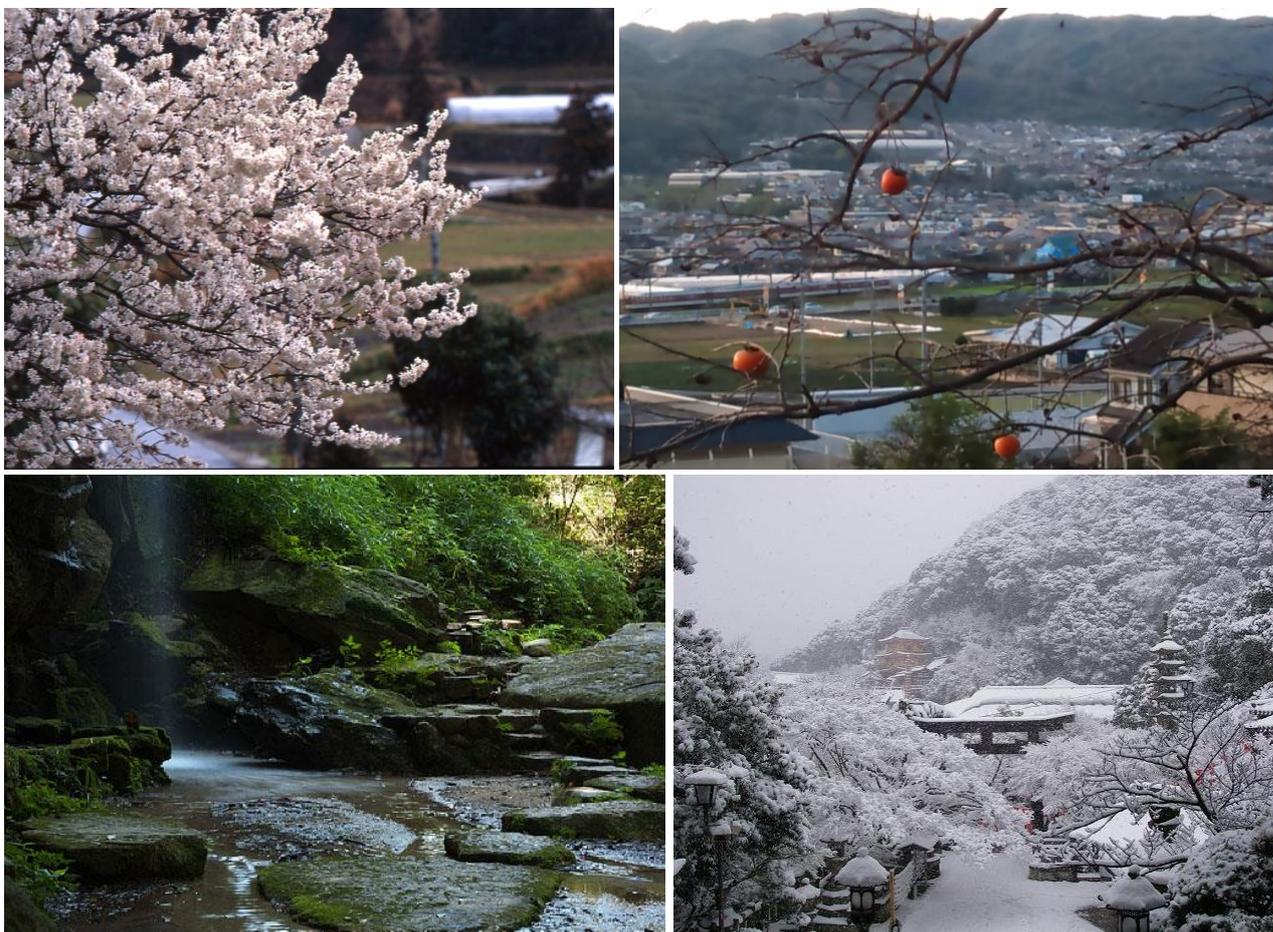
3. 計画期間

平群町観光基本計画(第二期)の計画期間は**令和8年(2026年)から令和17年(2035年)**までの10年間とします。

■スケジュール

基本戦略・個別戦略の計画期間は10年間、展開戦略は5年間とし、展開戦略の個別内容については5年目に見直します。

※上記計画期間の位置づけに関わらず、計画コンセプトに見合う内容については鋭意取り組んでいきます。



分析編

第2章 平群町の現状

1. 立地環境(地勢)

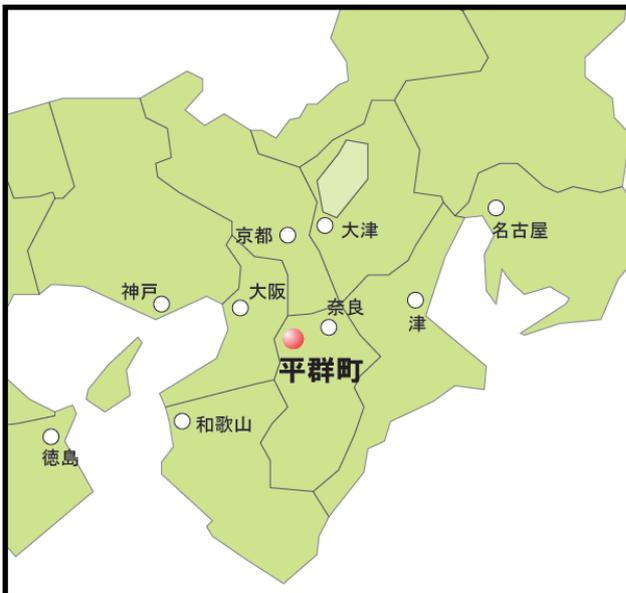
平群町は奈良県の北西部に位置し、大阪市から約1時間で訪れることができる緑豊かな町です。

東の矢田丘陵、西の生駒山系に挟まれた、南北に細長く伸びる平地が、周辺に類まれな景観と雰囲気を作り出しています。

また、万葉集にも詠まれた竜田川が流れ、それに沿うように街区が発達し、特に生駒山系の麓に新興住宅街が開発されています。

街区と自然環境そして基幹産業である農業が織りなす田畑のある景観は、「土と共にくらす」「緑と共にくらす」「自然と共にくらす」、日本の伝統的でありながら、今の社会潮流＝ライフスタイル傾向に合致した環境を備えています。

そのような環境が、大都市から1時間という東西の丘陵に囲まれた土地に息づいています。



2. 観光資源

①自然(景観)

東の矢田丘陵、西の生駒山系と、東西を豊かな雑木林を湛えた丘陵地に挟まれた平群町は、名実ともに豊かな自然に囲まれた土地となっています。

「平群町の自然」に対する認識として特筆すべきは、平地とその中心を流れる竜田川という自然地理が生み出す「景観」「景色」にあると云えます。古くから土地を呼びならわす「平群谷」が、自然としての平群町の最大の魅力を生み出しています。

また、宅地開発が行われており、自然と人の営みが共生している環境と景観が、地域の特徴となっています。



②歴史

平群町内には古墳時代の遺跡をはじめ、幅広い史跡・遺跡が残っています。

そのなかで特徴的なものとして、「聖徳太子」、「命蓮上人」ゆかりの信貴山朝護孫子寺をはじめとして「役行者」の千光寺、奈良時代の「長屋王」と「吉備内親王」の御陵、「行基菩薩」の金勝寺、さらには十三峠に関わる人物として「在原業平」など、著名な歴史人物にかかわる歴史資産が多いことが特徴的です。

また、椿井城跡と信貴山城跡という中世の大きな二つの山城跡を有しており、県内では貴重な歴史資源となっています。山城の城主と言われる「嶋左近」と「松永弾正」という二人の戦国武将も、戦国時代ファンに強い人気を誇っています。

古代から戦国まで、それぞれの時代の著名な歴史人物が平群町にゆかりがあり、その事実が豊かな史跡・遺跡に加えた「地域の強み」です。



③農産物／～基幹産業・農業～

夏秋期の生産が日本一である「小菊」をはじめ、「バラ」、「イチゴ」、「ブドウ」等の品質・味は市場でも高く評価されています。

「平群の小菊」「平群ローズ」はブランドとしても定着しており、「産業」として高いポテンシャルを有しています。「イチゴ」の「古都華(ことか)」は生産面積県内一を誇り、道の駅での販売やふるさとの納税返礼品としても高い支持を得ています。

農産物に対する市場での評価は高く、一般消費者にも徐々に浸透しつつあり、道の駅直売所を中心に認知度アップに取り組んでいます。



④くらし

平群町は西に生駒山系、東に矢田丘陵を仰ぎ、中央を北から南に竜田川が流れる別名「平群谷」とも呼ばれる緑豊かな立地環境に穏やかな生活圏を形成しています。近鉄平群駅前が開発され町の玄関口として賑わいを創出しています。また、168号線沿いの商業施設の集積が進み、生活の利便性も向上しています。

住民は平群谷の豊かな自然を愛し、これを保全しながら豊かな緑に包まれた暮らしを大切にしています。



3. 観光ルート

平群町内の観光ルートは「歴史・文化」資産のポイントを巡るハイキングルートとして、4コース設定しています。

町内のハイキングルートの案内・誘導サインもこのルートに基づいて配置しています。

① 北部コース「千光寺・役行者と修験の道」

町の北西深く、谷川を遡り山を分け入ると現れる「千光寺」。ここは修験道の開祖、役行者の開いた寺で、行者の母親も入山修行しており、母公堂が祀られ、女性にも山内が開放された修験道の霊場となっています。北部コースでは元山上口駅より生駒山口神社、揺るぎ地藏石仏群を経て千光寺に入り、その後金勝寺、長屋王墓を巡り、平群駅へ至ります。かつて役行者が歩いたであろうこのコースで、行者縁りの修験の道を感じてください。

② 中部コース「十三街道と業平ロマン道」

町の西側中央、生駒山地の十三峠があります。ここは大阪玉造より伊勢への道筋で「十三街道」と呼ばれ、平安時代の歌人、「伊勢物語」の主人公とも言われる在原業平が天理の自宅より河内高安の彼女の元へ通ったとされ、「業平道」とも呼ばれています。中部コースではその道筋をたどり、藤田家住宅や普門院跡、杵築神社から、十三塚などをたどります。業平の見た風景に思いを馳せながら、峠までの道程を歩いてみてください。

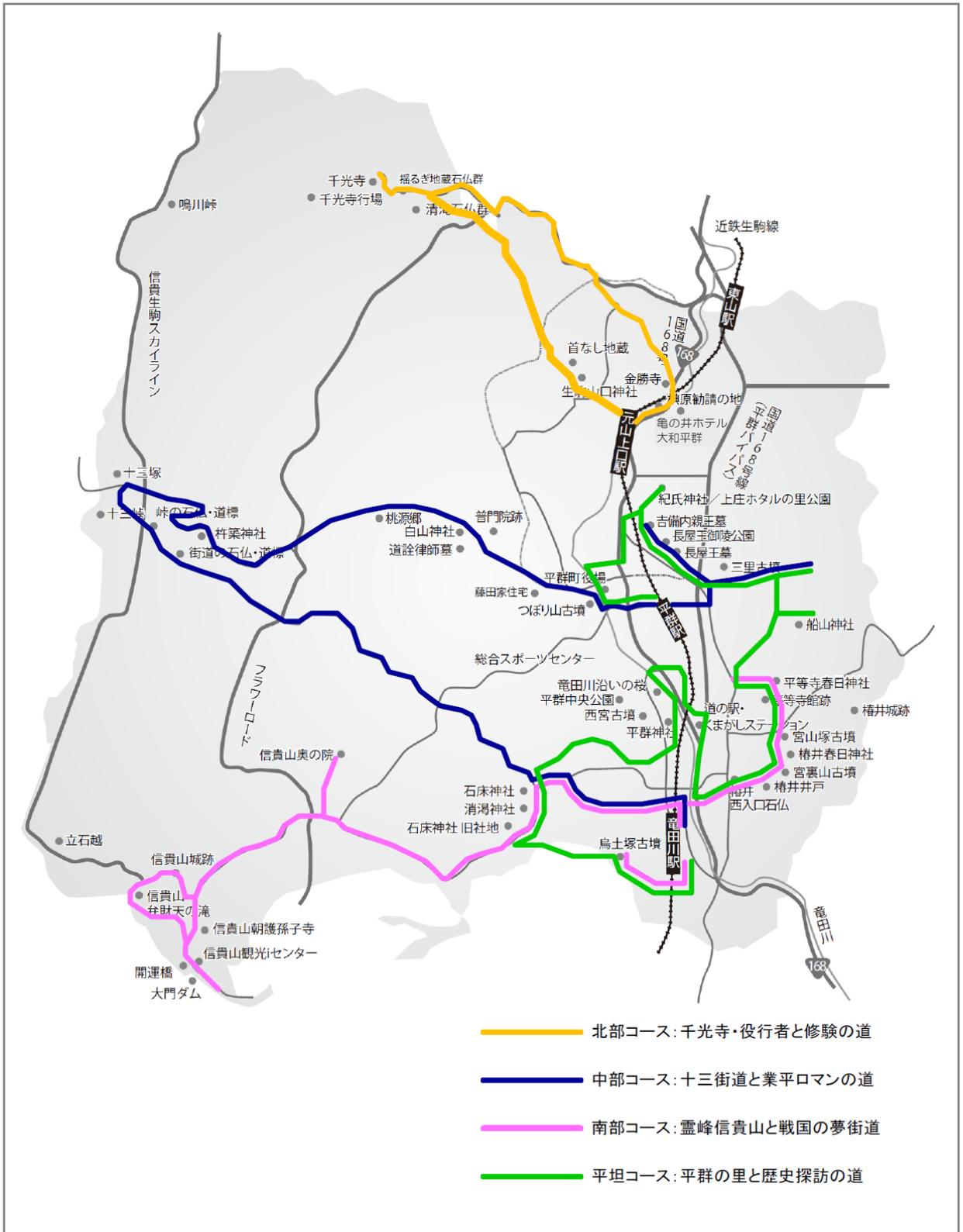
③ 南部コース「霊峰信貴山と戦国の夢街道」

町の南西端にそびえる信貴山。この山は古来より「信ずべし貴ぶべき山」とされ、聖徳太子が物部守屋征伐の時、戦勝を祈願し、日本で最初に毘沙門天を感得した聖地です。平安初期の命蓮上人が中興した信貴山朝護孫子寺はその信仰のシンボルです。南部コースではこれら古代から戦国時代の貴人や武将たちの夢の跡を訪ねてみてください。

④ 平坦コース「平群の里と歴史探訪の道」

町のほぼ中央、竜田川を挟んで東西に広がる平坦な地に残る、古代を中心とした史跡を巡るコースです。烏土塚古墳や剣上塚古墳、西宮古墳をはじめ石床神社旧社地に残る磐座などから、古代人のくらしやこころに思いをはせ、ゆったりのんびりと平群のまちを散策してみてください。

■平群町観光ルート



4. アクセスルート

①アクセスルート

東西が丘陵地であるため、アクセス路は南北ラインに限られます。

自動車アクセス道は主要幹線道路である「国道 168 号線(平群バイパス)」、「西和広域農道(フラワーロード)」の2ルートが存在します。

鉄道は、ほぼ町の中央部を南北に近鉄生駒線が運行しています。



②アクセス拠点

観光的なアクセス拠点としては、道の駅くまがしステーション及び「東山」、「元山上口」、「平群」、「竜田川」の近鉄4駅となります。

西和広域農道(フラワーロード)沿線の西部地域にはアクセス拠点が無いのが現状であり、その点からも町内回遊ルートは東側からに限定されます。

但し、「信貴山観光 i センター」や「千光寺」などアクセス拠点化できるポイントは西部地域にも存在します。



5. 広報PR

① 観光マップ・リーフレット

平群町を訪れた方々に観光的案内を行う『山のぼっけ平群のみどころ』、『ハイキングマップ』及び『へぐり自然と歴史の玉手箱』があります。

『山のぼっけ平群のみどころ』は、平群ならではの歴史・自然・食・体験などを紹介するものです。『ハイキングマップ』はハイキングルートマップに特化したもので、散策時に持ち歩きが簡易なものです。『へぐり自然と歴史の玉手箱』は地域ゆかりの歴史人物と関連史跡などをわかりやすく紹介するものです。



② ホームページ

平群町公式ホームページとは別に独立した平群町観光ホームページを開設しています。

スマートフォン表示にも対応しており、歴史・自然・農産物・平群ブランドなどについてカテゴリごとに分かりやすく紹介しています。イベントについてはニュース&トピックスに都度記事を掲載しています。

■ 観光ホームページ山のぼっけ NAVI.



6. 祭事及び催事

①祭事・催事

地域の歴史や自然を内外に強く発信することを目的に企画から運営まで住民参加を実現した「へぐり時代祭り」をはじめとして、秋の収穫祭と文化祭を一体化した「オータムフェスタへぐり」さらには商工会による「花火大会」や「楽市」、竜田川沿いの鯉のぼりや桜のライトアップなど地域の特徴を活かした催しが積極的に実施されています。

信貴山朝護孫子寺の「毘沙門天王二十八使者守護善神練り行列」や「柴燈護摩供野外火渡り大祈願会」、千光寺の「戸開け、戸閉め式」や「滝祭り火渡り修行」など、寺社仏閣の年中行事が行われています。



②新たな観光施策

町の基幹産業である農業を活かした観光施策を進めています。

道の駅大和路へぐりくまがしステーションでは幅広い層の集客と賑わいを創出する「道の駅大和路へぐり未来プロジェクト」を推進し、四季フェスタの開催など様々な取り組みを行っています。

また、「古都華の聖地：平群」を広くPRするため、道の駅での古都華フェアや町内飲食店によるスイーツフェアなどを開催しています。

民間主導で平群駅前の平群町総合文化センターどんぐり広場を活用したマルシェも頻繁に開催されています。



7. 平群ブランド

①平群ブランド認定

平群ブランドの認定は、自然・歴史・農産物・暮らしなどの平群が持つすべての魅力において、認定対象となる地域資源にそれぞれ基準を設け、総合的に勘案して決定しています。

認定一覧

(令和8年1月現在)

認 定 一 覧		認定数
農産物	イチゴ「古都華」	4名
	ブドウ「デラウェア」	1団体
	ブドウ「巨峰」	1団体
	バラ	1団体
	コギク「平群の小菊」	1団体
加工品	イタリアンジェラート(いちご)	1社
	金時いもジェラート「へぐりっこ®」	1社
	かぼちゃジェラート「へぐりっこ®」	1社
	自家製ジャム(古都華)	1社
	手作り味噌	1社
文化財等 地域資源	信貴山朝護孫子寺(寺院及び信貴山エリア)	2ヶ所
	千光寺(寺院及び参道エリア)	

②平群ブランド展開

ポスターをシリーズ化して制作し、広く掲出を進めています。観光ホームページ山のぼっけNAVIやSNSでの発信、各種イベントでの積極的なプロモーションを進めています。また、ブランド認定品には認定の証となるブランドシールの添付を推奨しています。



第3章 平群町の課題の整理

1. 観光基本計画(第1期)の評価

●観光基本計画(第1期)の個別戦略の取り組みと今後の方向性

【自然】

平群谷景観15選・3名勝を設定し、自然と共に色彩や音色を楽しむ提案は観光ホームページなどで発信してきました。SNS やアプリの発達により、今後はいっそうデジタルに対応した情報発信を推進していく必要があります。

【歴史】

歴史人物を切り口とした史跡の紹介や広報PRについては、観光ホームページの人物紹介「古今東西」や自然と歴史の玉手箱の発行などにより展開してきました。今後はデジタルコンテンツをさらに充実させ、歴史ファンに向けた情報発信を進めていきます。

【農産物】

「平群の農」のブランド戦略として、特に小菊・バラ・ブドウ・イチゴ(古都華)については平群ブランド認定品を中心に広くプロモーションをしてきました。道の駅大和路へぐりくまがしステーションにおいても、農産物のブランド化に寄与するプロジェクトを推進してきました。今後はさらにブランド力を育て、食や体験の仕組みを創り交流人口を増やしていきます。

【くらし】

住民参加による季節の催しや「単線」で遊ぶ仕掛けなどについて実施できた取り組みは少ないですが、今後もくらしの中の魅力を引き出し、住む人も訪れる人も楽しめる住民参加型アクションを検討していきます。

【ネットワーク】

信貴山朝護孫子寺・千光寺・道の駅をアクセス拠点とし回遊するための仕組みづくりや近隣市町村とのネットワーク形成(生駒山系広域利用促進協議会、WESTNARA 広域観光推進協議会)により周遊促進について取り組んできました。今後も来訪者目線での有用な周遊ルートや関連イベントの情報発信を強化していきます。

【広報PR】

観光ホームページの制作・運用、平群ブランドポスターの制作・掲出を進めてきました。また地域資源を生かしたイベントについても継続的に実施してきました。近畿大学や民間企業との連携にも取り組み、特産品開発を進めてきました。今後も引き続き話題性のある広報展開を進めていきます。

2. 平群町の資源

平群ならではの魅力

- 古都華・バラ・小菊・ブドウといった誇れる特産物がある
- 道の駅大和路へぐりは法隆寺や信貴山朝護孫子寺から立ち寄りやすく、農産物が新鮮で魅力的である
- 信貴山縁起絵巻を保有する信貴山朝護孫子寺がある
- 都会へのアクセスが良く、便利で住みやすい土地である
- 都会に近い田舎であり、自然が多い
- イベント開催が多く活気がある
- 信貴フラワーロードはドライブやツーリングに魅力的である
- 谷という地形により、町から山を望み、山から町を一望できる
- 椿井城跡は眺望が良く、嶋左近ゆかりの地であり観光地としても魅力がある
- 各年代の古墳が多く玄室に出入りできる古墳が多い

平群ブランドに対する認知度

- 平群ブランドの認知度は低く、町外はもとより町民にとっても身近に感じられるブランドとして浸透しきれていない
- 「山のぽっけ HEGURich」をブランドコピーとし、ロゴマークを制定し消費者に「商品」の価値・品質保証を確約するマークとして機能することを目指して運用してきたが、認知度はまだまだ低い状況である
- 平群ブランド認定を受けたものが地域資源として価値向上へ繋げていく必要がある
- 住民が平群ブランドの育成者であり、体现者、伝道者であるために、活動ステージを整えさらに積極的に情報伝達する役割を行政が果たす必要がある

3. 平群町の課題

課題①

平群谷の豊かな緑や自然の維持保全、歴史・文化に磨きをかけることが必要

豊かな自然は本町の魅力であり、信貴山や椿井城跡などの歴史資源は、他の地域にない貴重な地域資源となっています。これらについて、引き続き保全・管理を図るとともに、町外から人を惹きつける資源として積極的に活用していくことが求められます。

課題②

平群町の魅力を町内外に発信することが必要

都市近郊にありながら豊かな自然や歴史資源を有している環境は町の大きな特徴です。第1次観光基本計画の基本戦略として「地域ブランドの立ち上げと運用」を掲げ、山のぼっけ「HEGURich」をブランドコピーとして情報発信に取り組んできましたが、町の取り組みに関しては、町外はもとより町内での認知度も低いことから、町内外へ効果的に発信することが必要です。

課題③

住民の暮らしを支えるための都市基盤の整備・産業づくりが必要

地域の基幹産業である農業のブランド力を高めるとともに、農業を起点とした観光産業の育成等の取組も求められます。

基本戰略編

第4章 観光基本戦略

1. 地域ブランド

平群クオリティを約束する 平群ブランド の醸成と磨き上げ。

ポイント① 地域の「資産価値」を高める。

交流者の平群町と観光資源に対する認知を高めると共に、それらに対するイメージを育み定着させ理解してもらいます。また、平群町民には、普段何気なく親しんでいるものが、実は外部に発信しても良い「平群ならではの魅力」であることを理解していただき、「わがまち」に愛着と誇りを持ってもらいます。

ポイント② ここにしかない魅力を差別化する。

「地域の価値」のクオリティを維持しさらには発展させていく必要があります。それにより、交流者の憧れや評価と、住民の「愛着」と「誇り」を育み続けていきます。平群ブランドは、「平群ならではの魅力」を明確にし、それに基づく優れた情報や商品・サービスなどを継続的に生み出し、交流者に提供・発信し続けることで、平群町を魅力的な地域としていくことを目指します。

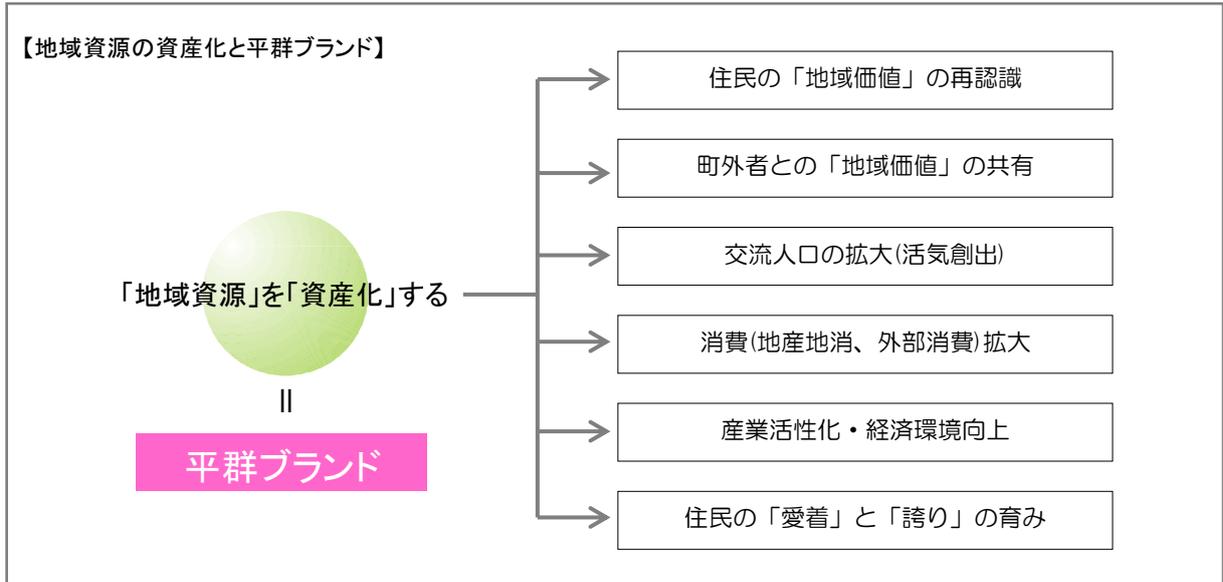
ポイント③ プロモーションの強化

「平群ならではの魅力」を住民の誇りとし、交流者に提供・発信し続けます。町外・県外での積極的な情報発信により、平群町の知名度向上および平群ブランドの育成を目指します。また、SNSなどを踏まえたデジタルコンテンツの充実やインバウンドに向けた体制整備なども含め、広い層に届く情報発信を目指します。

2. 平群ブランド

「平群町」という地域を活性化し絶対的な魅力を有する地域となるためには、自然・歴史・農産物・くらしなど地域らしさ＝「地域特徴」「地域資源」＝「平群にしかない魅力」を如何に活用し活性化し、町内外の人々に対して魅力的なものとするのか。いわゆる、地域資源の「資産化」がポイントとなります。

資産化を推進する単一ワードとして象徴的にまとめられるもの、平群町の魅力を町内外に繋ぎ約束する言葉、それが「平群ブランド」です。



■平群ブランドコピー

山のぽっけ HEGURich

■平群ブランドロゴマーク



■「平群ブランド」の役割の整理

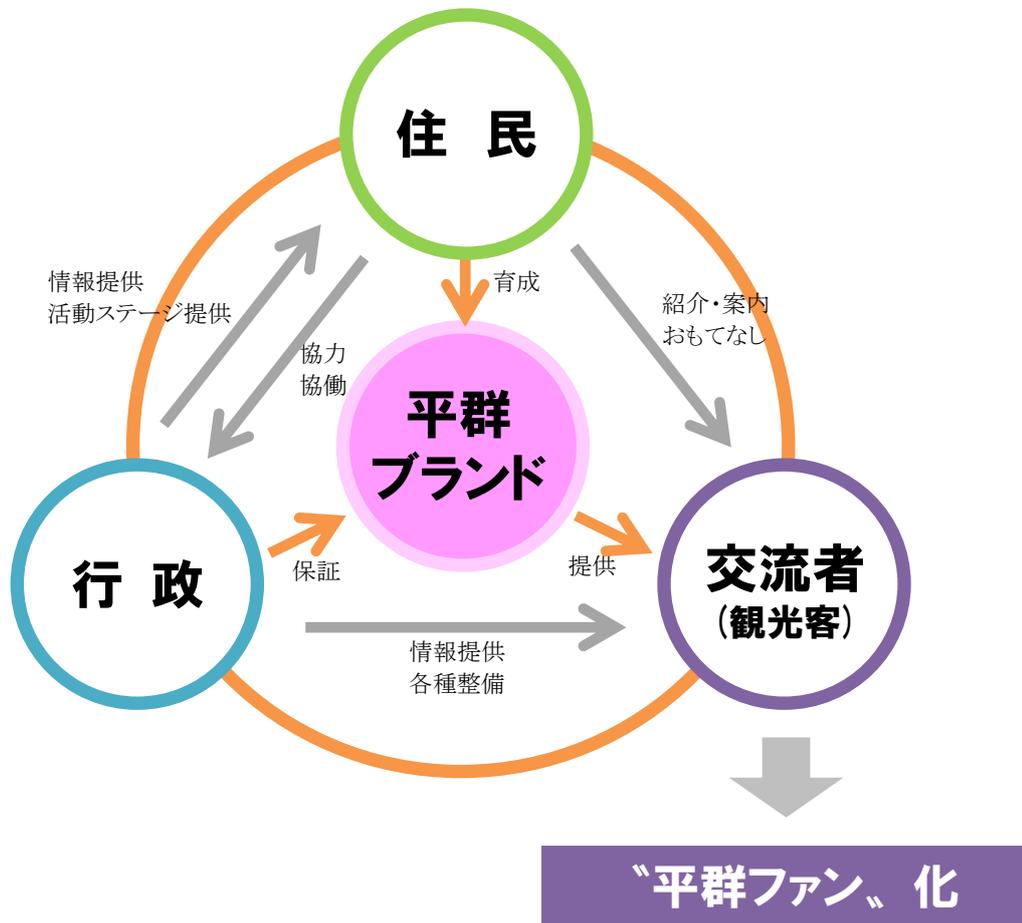


3. 住民との協働

「平群ブランド」の認証と運用、ひいては平群町の活性化は、行政だけでなく住民との協働により進めていきます。

住民一人ひとりに「地域の魅力」を理解いただくと共に、「魅力ある地域」にくらす楽しさと幸せを理解していただく必要があります。その理解を、「地域の魅力」を大切に思い育ていく気持ちと行動につなげていただくと共に、交流者に対してホスピタリティ(おもてなし)のこころを持って「魅力」を案内していただく行動へとつなげていっていただきます。

住民こそ、地域の魅力、「平群ブランド」の育成者であり体现者、伝道者であると考えます。そのために、活動ステージを整え、情報を積極的に(町内外に)伝達する役割を行政が積極的にはたします。



4. 戦略体系

「観光」戦略
(ブランド適用方針)



誇りと魅力の源泉となる
新しい観光づくり

資源一つひとつが
全ての人の
こころと暮らしを豊かにする

資源	ブランドの展開方針
自然	<p>「平群谷」の景観を五感で愉しむ こころ豊かな地へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然を「財産」「資源」として意識します。 ○生駒山系・矢田丘陵という「自然環境」に囲まれた環境そのものを資産化し活用します。 ○丘陵からの見晴し。東西丘陵の四季の表情の変化。丘陵に囲まれているが故に響く様々な音色。そのままですでに豊かで特徴的な「地の恵み」であると意識します。
	<p>「歴史人物」たちの物語を愉しむ こころ豊かな地へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歴史の地」である奈良県に埋没しない、歴史性の発信による地域の特徴化を図ります。 ○地域の歴史を彩る「歴史人物」に着眼した情報発信を行い、地域の歴史の多彩性や物語性など、平群らしい歴史の奥行き感を大切にします。 ○著名な「歴史人物」とその関連史跡を切り口とすることで、地域の歴史さらには地域に対する興味への入口を明確化し、町内外を問わず全ての人にとって親しみやすいものとします。
農産物	<p>育み・収穫し・食する「農産物」を満喫する こころ豊かな地へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の豊かさ・自然の豊富さを発信する最大の戦略資源として「農産物」を位置づけます。 ○購買し食べるだけでなく、自ら育てたり、収穫したり、さらに収穫したものをその場で料理したり、地域の「農産物」の体験性を拡大します。 ○様々な体験性を通じて、豊かな農産物のある心身共に豊かになれる地としてのイメージを確立すると共に、「平群ファン」を形成します。
	<p>「暮らし」をもっと積極的楽しむ こころ豊かな地へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな環境の中での暮らしをより良いものとする施策を地域の魅力づくりに連動します。 ○暮らしのステージである「街中」や日々利用する鉄道など、日常的なものを非日常的なものとして住民自らが楽しむ仕掛けを用意します。 ○自らが住む環境を見直すことで、地域に対する誇りと親近感を育むと共に「まち」そのものを魅力化し、地域の総合的な魅力化・活性化に繋がります。
ネットワーク	<p>自動車及び公共交通機関 2 軸の流入動線を考慮し、それぞれに対する「流入拠点」を創造します</p>
広報PR	<p>「平群ブランド」をより魅力的に表情豊かに発信伝達し、平群町の認知を高めるだけではなく、良好な地域イメージを確立します</p>

平群町観光基本計画における具体的検討施策	【参考】 適合する総合計画の施策
<p>①「平群ならではの」自然の楽しみ方を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観ポイントの設定 ・SNSを活用した発信・交流 <p style="text-align: center;">※「農作物」施策、「暮らし」施策との連携</p>	<p>B-1 町内外への豊かで魅力のある情報発信の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ②自然資源や特産品を活用した観光の推進 <p>C-3 豊かな歴史資源や特産品を生かした観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ②自然資源や特産品を活用した観光の推進
<p>①「歴史人物」を切り口とした広報PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民協働による「へぐり時代祭り」の開催と広報力の強化 ・国宝「信貴山縁起絵巻」を発信するイベントの開催 <p>②「歴史人物」を切り口とした史跡の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史人物」で呼び込み、ゆかりの地を基点とした史跡・文化財散策を提供 ・「歴史人物」を活用したホスピタリティ(おもてなし)の充実 ・デジタルコンテンツの活用 	<p>C-3 豊かな歴史資源や特産品を生かした観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歴史的観光拠点づくりの推進 ③道の駅や観光ボランティアガイドとの連携強化
<p>①平群の農のブランド戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略ブランド商品 ・特産品開発 <p>②「平群の農」との印象的な出会いを演出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験の機会創出 ・地元の新鮮な農産物を食する体験を提案 <p style="text-align: center;">※「自然」施策、「暮らし」施策との連携</p>	<p>C-2 持続的で安定した農業経営に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農産物のブランド力向上及び高収益作物の推進による農業の経営支援 <p>C-3 豊かな歴史資源や特産品を生かした観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ②自然資源や特産品を活用した観光の推進
<p>①住民・町内事業者参加による「季節のくらしや食」をテーマとした催しの開催を検討</p> <p>②「単線」を楽しみ誇りに思い、魅力化するプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単線の風景」フォトコンテストの鉄道事業者との共同実施 ・「車窓から」景観キャンペーン <p style="text-align: center;">※「自然」施策、「農作物」施策との連携</p>	<p>C-3 豊かな歴史資源や特産品を生かした観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ②自然資源や特産品を活用した観光の推進
<p>①自動車アクセス対策</p> <p>②近鉄生駒線4駅からのアクセス対策</p> <p>③町内回遊ネットワーク対策</p> <p>④広域ネットワーク対策</p>	
<p>①インバウンドを意識した情報整備</p> <p>②「平群ブランド」ポスター・チラシの発信</p> <p>③地域資源を活かしたイベントで話題性を向上</p> <p>④産学官の連携</p>	<p>B-1 町内外への豊かで魅力のある情報発信の推進</p> <p>C-3 豊かな歴史資源や特産品を生かした観光振興の推進</p>

個別戰略編

第5章 「自然」の展開戦略

1. 「平群ならではの」の自然の楽しみ方を提案

平群町の最大の魅力は東西を丘陵に囲まれた「自然の豊かさ」。単に自然が豊かなだけでなく、それが人の営みと深く結びついているところが最大の魅力です。

人がいて自然がある。自然があって人がいる。「大自然」ではなく「身近な自然」。

都会では失われた、春夏秋冬それぞれに豊かな表情を見せ、季節が移ろうことを教えてくれる「平群らしい自然」を、町外の方々にも満喫していただきます。

「平群ならではの自然の楽しみ方」の具体的展開案

平群谷の自然を楽しむための、環境整備と情報発信を推進します。

A) 景観ポイント「へぐり谷景観スポット」と「3名勝」の設定

平群谷に対する景観が優れているポイントや独特の景観を形成しているポイントを用いて、積極的に景観を楽しむポイントとして設定します。平群町内で「へぐり谷景観スポット」と「3名勝」を選定して発信していきます。

B) SNS やデジタルコンテンツを活用した情報発信

平群町観光公式 Instagram を中心とし、SNS などを積極的に活用し“映え”を意識した発信を「へぐり谷景観スポット」「3名勝」を中心に行い、ポイントで楽しむ景観を紹介します。行ってみたいくなる画像・動画などをデジタルコンテンツとして充実させていきます。



具体的展開案－A

景観ポイントの設定

【3名勝】

○平群谷に対する景観に加え、千光寺・金勝寺・信貴山朝護孫子寺の3ヶ所も、「由緒ある寺社」をポイントとして「3名勝」と設定します。

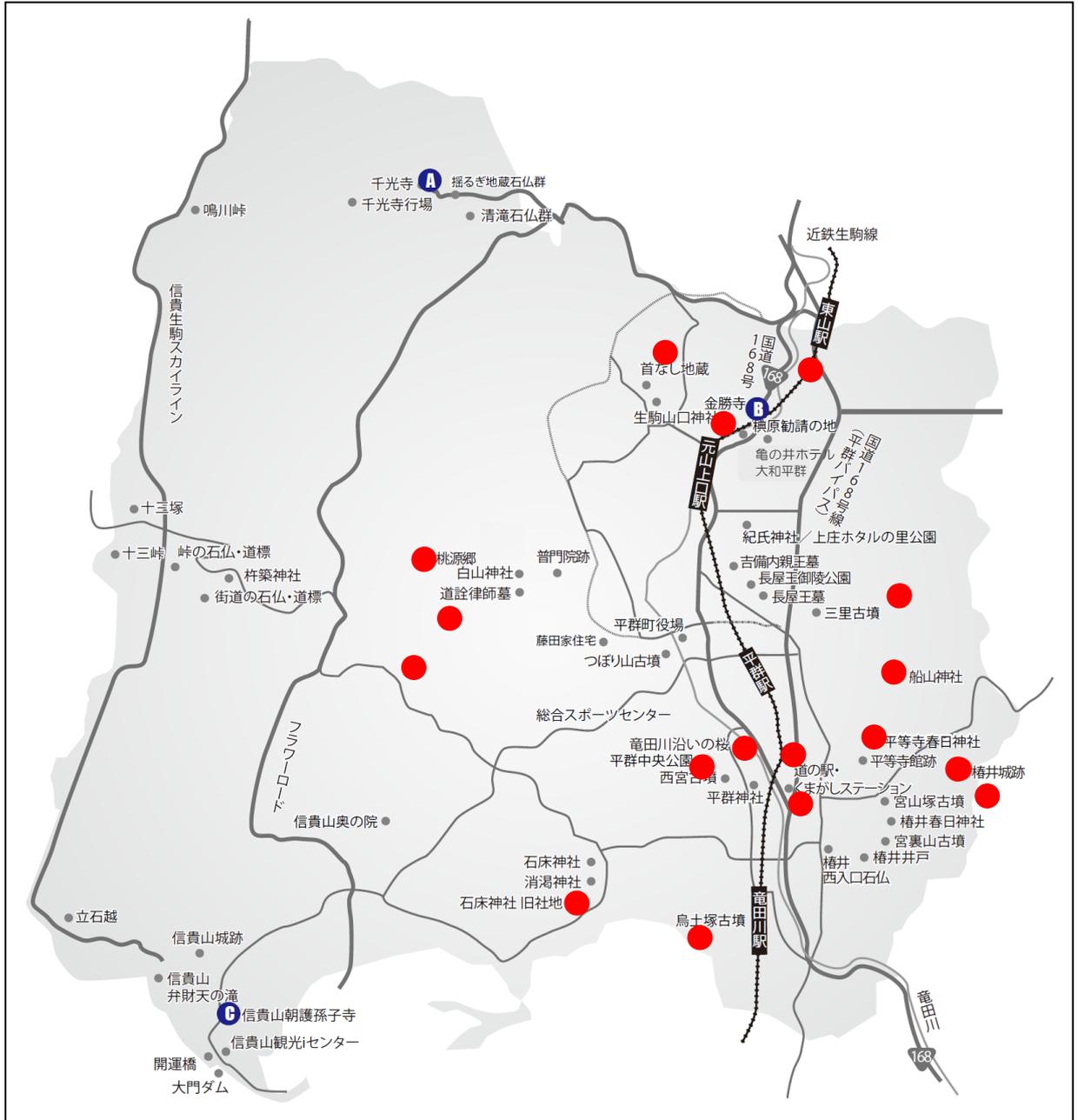
【へぐり谷景観スポット】

○平群谷に対する眺望・景観を中心に特徴的な景観を持つポイントを選定します。

【具体的なポイント案】

		景観ポイント	主な景観内容
3名勝	A	千光寺	水の流れ、盛夏の木々
	B	金勝寺	春の桜、秋のコスモス
	C	信貴山朝護孫子寺	桜、紅葉
へぐり谷景観スポット	1	馬鋤淵	竜田川の景観
	2	槻原の勸請綱と櫟原橋	竜田川の景観、単線風景
	3	三里の風景	平群谷への景観、雑木林
	4	船山神社と矢田丘陵	椿、矢田丘陵の景観
	5	平等寺春日神社	曲り松、平群谷への景観
	6	椿井城跡	平群谷への景観
	7	櫟原の田園風景	くらしと田園風景
	8	桃源郷	桃、レンギョウ、木蓮
	9	ユリの木の群生	ユリの木
	10	福貴の里の風景	里山の田園風景
	11	石床神社旧社地	陰石と樹木、田園風景
	12	烏土塚古墳	墳丘から見る平群谷の眺望
	13	平群中央公園	桜、ツツジ、銀杏
	14	竜田川遊歩道	桜、竜田川
	15	道の駅周辺	単線のある風景(単線と田畑)

【ポイント図】



【「3名勝」写真】

A) 千光寺



B) 金勝寺



C) 信貴山朝護孫子寺



【「へぐり谷景観」写真】

①馬鋤淵



②栴原の勧請縄と櫟原橋



③三里の風景



④船山神社と矢田丘陵



⑤平等寺春日神社



⑥椿井城跡



⑦くらしと田園風景



⑧桃源郷



⑨ユリの木の群生



⑩福貴の里の風景



⑪石床神社旧社地



⑫烏土塚古墳



⑬平群中央公園



⑭竜田川遊歩道



⑮道の駅周辺



具体的展開案ーB

SNS 等を活用した発信・交流

へぐり谷景観ポイントや3名勝などを中心に自然豊かなへぐりの景観をSNS等を活用し、広く発信していきます。また、SNS 上での交流を増やし、来訪へつながる仕組みづくりを目指します。

具体的なアクション

【四季折々の風景の発信】

○へぐり谷景観ポイントに設定した場所で四季折々の風景を発信します。ポイント以外でも季節ごとに観られる魅力的な景観を紹介していきます。

【祭事や行事の発信】

○3名勝(信貴朝護孫子寺・千光寺・金勝寺)の祭事や行事について、写真や動画により来訪につながるような発信をしていきます。3名勝以外にも、平群ならではの行事を積極的に発信していきます。

【ハッシュタグキャンペーンなど】

○ハッシュタグキャンペーンなど参加型アクションによりの交流を増やし、へぐりの自然を身近に感じ来訪のきっかけとなるよう努めます。



第6章 「歴史」の展開戦略

1. 「歴史人物」を切り口とした広報PR

嶋左近や松永弾正、長屋王をはじめとする絢爛たる歴史人物や、国宝「信貴山縁起絵巻」などの文化財を活用した催しを開催し、話題性と関心を高め、ひいては平群町の豊かさを広く発信します。

①住民協働による「へぐり時代祭り」の開催と広報力の強化

- 平群ゆかりの歴史人物をテーマに、時代衣装を身にまとった絢爛たる時代行列を中心とした「へぐり時代祭り」を住民協働のもと開催します。
- 歴史を切り口に展開を拡大したり、農産物との連動でより「山のぼっけ」の魅力と恵みを満喫できる連動展開を強化したり、広報展開の充実を図ります。

■「へぐり時代祭り」の強化ポイント

A) 広報力の強化

- ・広報手法の検討

B) 歴史的付加イベントの充実

- ・ボランティアガイドによるガイドツアーの強化

C) 地域のテーマイベント化

- ・「農産物」体験イベントの導入



②国宝「信貴山縁起絵巻」を発信するイベントの開催

- 信貴山朝護孫子寺が所有する国宝「信貴山縁起絵巻」を活用したイベントの開催を検討します。
- 住民だけではなく広く一般の方々が参加でき、「信貴山縁起絵巻」に関わってもらうことで、国宝が人に近い、歴史と人が近い平群町の豊かさ(「山のぼっけ」の豊かさ)を感じていただきます。

2. 「歴史人物」を切り口とした史跡の紹介

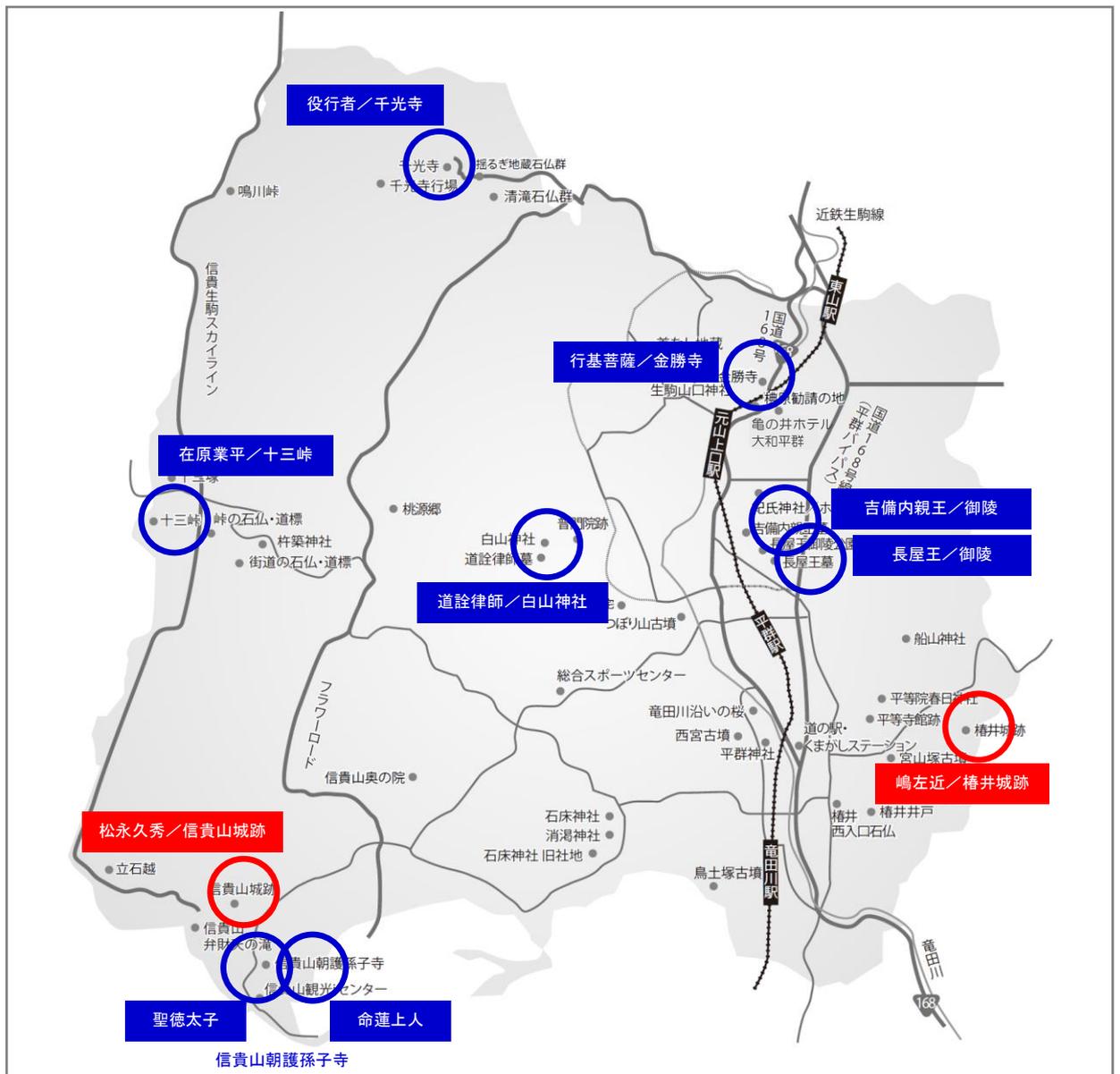
歴史・文化による地域活性化の方策として、ターゲットを考古学・史跡ファンだけではなく、「歴史ファン」に拡大します。

平群という地域にどのような歴史人物がいたのか、そしてその人物を中心にどのような歴史物語があったのか。地域の豊かな歴史物語を発信します。

①「歴史人物」で呼び込み、ゆかりの地を基点とした史跡・文化財散策を提供

- 歴史人物の物語を情報の核にしなが、歴史人物ゆかりの地を巡っていただきます。
- 歴史人物とゆかりの史跡を牽引力＝誘引ポイントに「歴史ファン」を引き入れ、散策の中でそれ以外の豊かな史跡・文化財を巡っていただきます。

■歴史人物ゆかりの史跡ポイント



②「歴史人物」を活用したホスピタリティ(おもてなし)の充実

A) 平群町観光ガイドボランティアガイドの会との連携

- 「平群町観光ボランティアガイドの会」と連携し来訪者の満足度向上を目指します。
- 平群町の「歴史及び歴史人物の語り部」として位置付けた上で特徴化を図り、平群町の観光の「話題性、発信の原動力」とします。

B) デジタルコンテンツの活用

- 歴史人物の物語を存分に楽しんでいただき、地域の歴史に対する興味と関心を高めることを目的に、老若男女を問わず幅広く普及しているスマートフォン等を用いて、歴史人物の物語を提供します。
- 平群町観光ホームページにて歴史人物を紹介する「へぐり人物絵巻」を史跡の現地の案内サインに「QRコード」を付加し、歴史人物の紹介や逸話を楽しんでいただくなどの活用を進めます。
- 動画コンテンツを充実させ、多言語表記のコンテンツやVRで体験できるコンテンツなどを増やします。



へぐり人物絵巻



※写真はイメージです

第7章 「農産物」の展開戦略

1. 「平群の農」のブランド戦略

平群の農産物の品質を端的に表現する、ブランド戦略農産物を設定します。道の駅での数量限定の農産物の販売、期間限定の加工品の販売などを通して、話題性を喚起し「平群の農産物」の価値を高めます。

平群の「農産物」のブランド化

○平群町の農産物のブランド力の強化を図り、地域イメージを高めます。

【戦略ブランド商品】

平群ブランドの適用を前提に、農産物分野の付加価値を高めることを目的として、単独でも市場競争力の高い農産物を戦略ブランドとして設定し、積極的に売り出します。

平群ブランドを牽引するリーディング品目として形成します。

①戦略ブランド

A) 平群の小菊

- 市場では既にブランドとして確立しており、高い品質と評価を得ている。
- 関西の市場で圧倒的なシェアを誇る。

B) ヘグリローズ

- 市場では既に「ヘグリローズ」の名前でブランドとして確立している。

C) 平群の古都華

- 生産面積県内一を誇り、味についての評価は高く希少価値が高い。

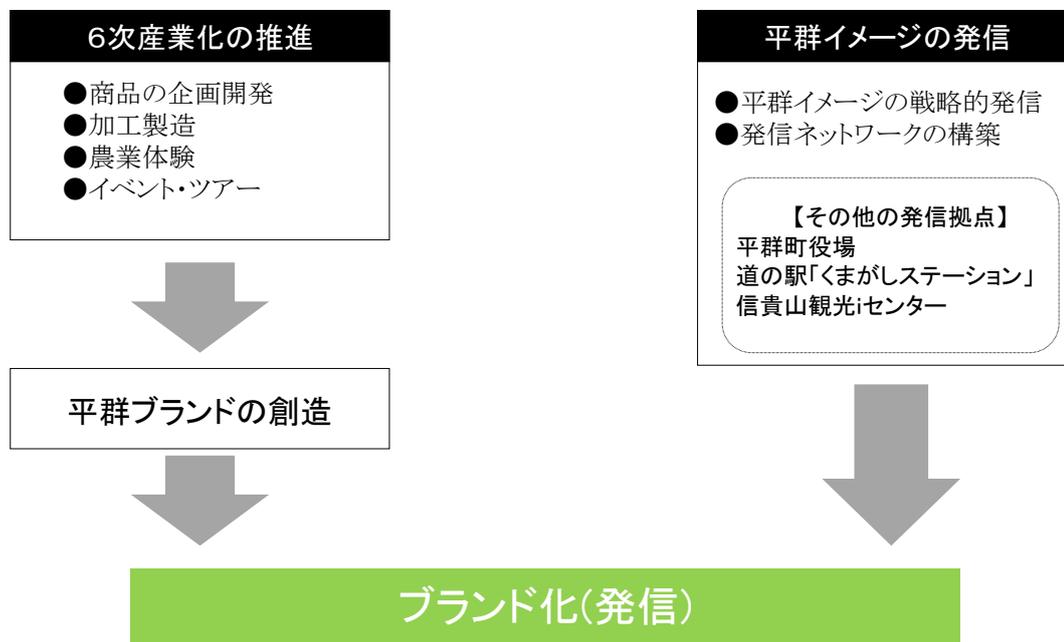
D) 平群のぶどう

- ハウス栽培によって品質管理が行われており、品質や味には定評がある。



【特産品開発】

特産品開発の役割は、平群町の基幹産業である農業を軸とした観光の促進と6次産業化の牽引・推進を期待するものであります。また、近畿大学農学部との連携を生かし、新たな加工品の開発に取り組めます。



2. 「平群の農」との印象的な出合いを演出

農業が盛んな地域ならではの農業体験や、地元の新鮮な農産物を食する体験を提案します。

①農業体験の機会の創出

- 平群の資源の大きな柱である「農産物」に着目し、収穫体験などの農業に触れる体験機会を創出します。
- イベント「オータムフェスタめぐり」を通じて、平群の農業に対する興味関心を喚起すると共に、人の営みと地の恵みが織りなす豊かさを広く発信します。

②地元の新鮮な農産物を食する体験を提案

- 産地ならではの新鮮な農産物を食する機会の創出を、道の駅大和路めぐりくまがしステーションのレストランをはじめ、町内の飲食店で進めます。
- 農産物の旬の時期に合わせた食の体験ができるイベントなどの開催を検討します。

第8章 「暮らし」の展開戦略

1. 住民・町内事業者参加による「季節のくらしや食」をテーマとした催しの開催を検討

四季を感じることができる環境、都市近郊の充実した新興住宅地。そんな「ゆたかなくらし」を外部に強くアピールすると共に、住民自身が改めてくらしの環境を認識し誇りとする機会を、住民・町内事業者参加型のアクションとして検討します。

【実施例】

A) 花いっぱいのもちづくり

- ボランティアを募り、役場・平群町総合文化センター・道の駅大和路へぐり「くまがしステーション」等公共施設や観光スポット等に花の植栽を進めます。
- 平群の小菊やバラなどの特産物をPRするため施設内での花の装飾や展示を計画し、花いっぱいのみどころを町内に創出します。

■実施イメージ



B) へぐりグルメフェスティバル

- 平群町の「食」に着目した展開として、平群町のレストラン、スイーツ店等に参加を呼びかけ、参加店舗が特定農産物を用いた創作メニューを用意するグルメフェスティバルを開催します。

■実施イメージ



2. 「単線」を楽しむ誇りに思い、魅力化するプロジェクトの推進

「単線」のある景観や音などの情緒感を見直す取り組みや、「単線」そのもので遊ぶ仕掛けを検討します。

住民にとっては暮らしを見直し豊かな気持ちになってもらう手段として、交流者に対しては地域をアピールする手段として活用します。

【実施例】

A) 「単線の風景」フォトコンテストの鉄道事業者との共同実施

- 平群町内での撮影を条件に、「単線と平群の風景」をテーマとしたフォトコンテストを計画。
- フォトコンテストを通じて、大阪から約1時間の地に「単線のある魅力的な景観」があることを、広く周知。
- 応募作品、入選作品はホームページに発表掲出すると共に、鉄道事業者の協力のもと主要駅構内で作品展示を行うことも計画。

B) 「車窓から」景観キャンペーン

- 単線列車が走る環境(外から見た単線電車)を売り出す一方で、平群町の景観を活用した単線の「楽しみ」を提案。
- 「窓から見る景観の楽しさ」をキーワードに、鉄道沿線の環境を演出し、「車窓イベント」として広く発信。



第9章 「ネットワーク」の展開戦略

1. 自動車アクセス対策

①アクセス道の設定

- 国道168号線(平群バイパス)をメインに、平群町西山間部の観光ロードである西和広域農道(フラワーロード)を加えた2路線を、観光用の基幹道と設定します。
- 生駒方面・北からの来訪者、国道25号線や王寺方面・南からの来訪者共に、メインの利用は国道168号線(平群バイパス)となるため、観光基幹道の中でも国道168号線(平群バイパス)を広域アプローチ道、西和広域農道(フラワーロード)を町内回遊道として位置付けます。

■アプローチ道(観光基幹道)の区分

国道168号線(平群バイパス)	⇒	広域アプローチ道
西和広域農道(フラワーロード)	⇒	町内回遊道

②自動車アクセス拠点の設定

- 国道168号線(平群バイパス)沿い、西和広域農道(フラワーロード)沿いに、自動車アクセス拠点を設定します。
- アクセス拠点を発着地として平群町全域を回遊できるように、町内でバランス良く配置します。
- アクセス拠点は駐車場の有無だけではなく、
 - A) 拠点そのものに観光誘客力があること
 - B) 拠点を基本に周辺散策(周辺観光)を楽しめること
 - C) それぞれの拠点で差別化と特徴化が図れることを基準に設定します。
- 具体的には、町内に3つの自動車アクセス拠点を設定します。

■3つのアクセス拠点

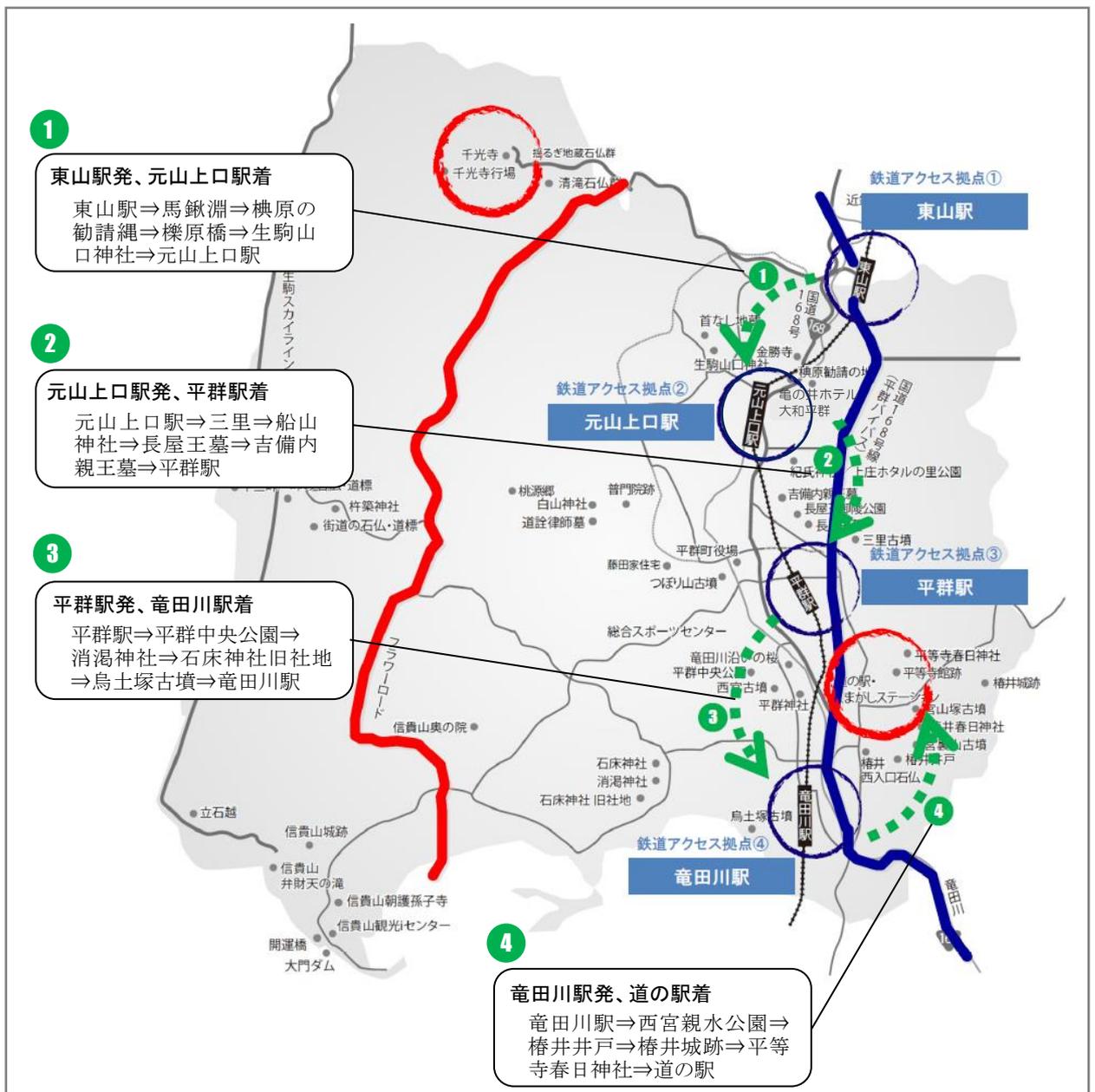
- 1) 千光寺
- 2) 信貴山朝護孫子寺
- 3) 道の駅「くまがしステーション」

2. 近鉄生駒線4駅からのアクセス対策

①アクセス拠点の考え方

- 近鉄生駒線の平群町内の4つの駅を拠点として設定します。
- 既存モデルコースの拠点となるのはもちろんのこと、各駅を出発地とする1時間半程度のミニ散策コースを設定し、各駅下車で気軽に平群の魅力を楽しんでいただける環境を整えます。
- 鉄道アクセス拠点それぞれの観光的魅力を向上させながら、拠点の情報連動を行い、総合的な町内回遊性の向上を実現します。

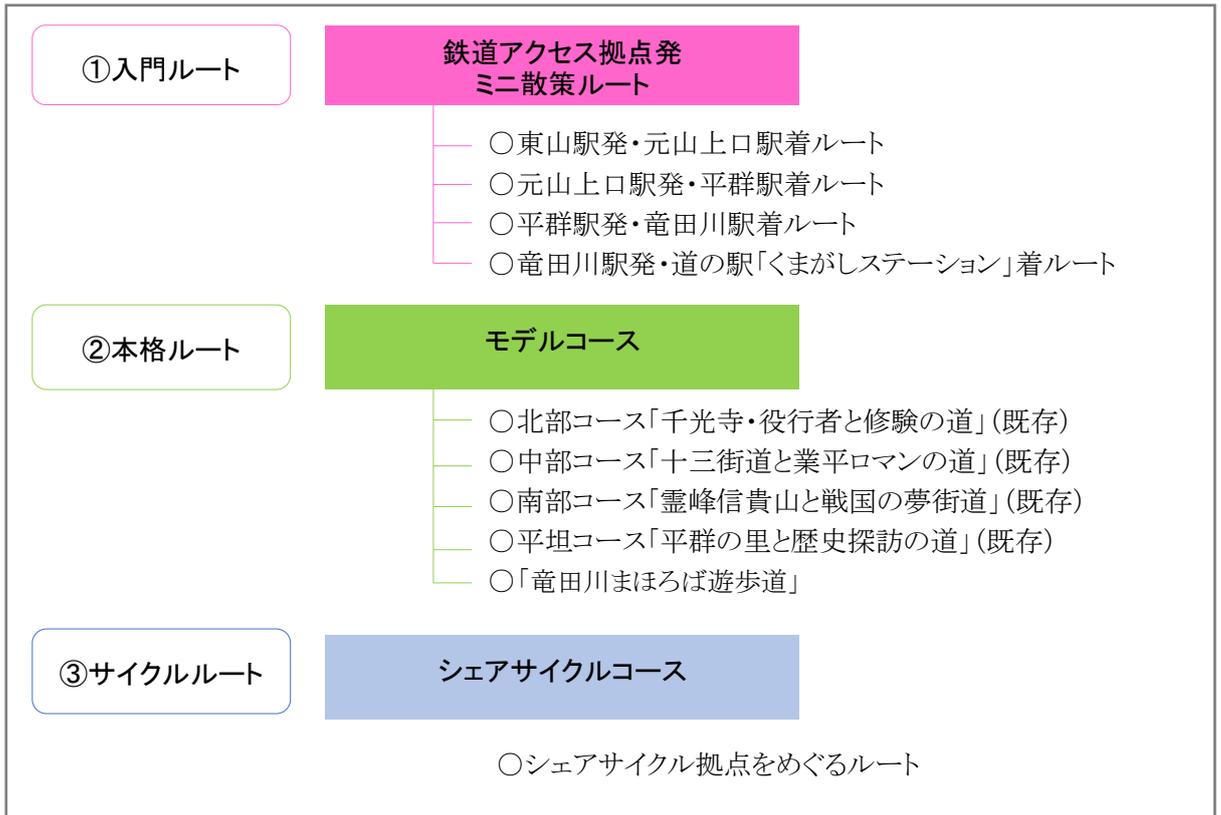
②生駒線4駅からのアクセス対策図



3. 町内回遊ネットワーク対策

既存モデルコースを基本に、3つの自動車アクセス拠点の充実を図り自動車での町内回遊を高めると共に、4つの鉄道アクセス拠点間のミニ散策コースを設定し、交流者それぞれの好みに合わせた回遊性を高めます。

■3つの町内回遊ルート



①入門ルート／ミニ散策ルート

○平群町内の4つの近鉄駅を鉄道アクセス拠点として位置付け、駅単位で1時間半程度のミニ散策コースを設定します。

	出発駅	到着駅	ルート概要
①	東山駅	元山上口駅	東山駅⇒馬鋳淵⇒槻原の勧請縄⇒櫛原橋⇒生駒山口神社⇒元山上口駅
②	元山上口駅	平群駅	元山上口駅⇒三里⇒船山神社⇒長屋王墓⇒吉備内親王墓⇒平群駅
③	平群駅	竜田川駅	平群駅⇒平群中央公園⇒消渴神社⇒石床神社旧社地⇒烏土塚古墳⇒竜田川駅
④	竜田川駅	道の駅 「くまがしステーション」	竜田川駅⇒西宮親水公園⇒椿井井戸⇒椿井城跡⇒平等寺春日神社⇒道の駅「くまがしステーション」

②本格ルート／既存モデルコース

- 既存の4コース(北部、中部、南部、平坦コース)は、平群町の主要な観光スポットを網羅し、散策サイン、案内パンフレット、平群町公式ホームページで紹介していることから、平群町内回遊ルートの基本散策コースとします。
- 立ち寄り客が多い道の駅「くまがしステーション」を基点としながら、平群の歴史の特徴である戦国時代の山城跡「椿井城跡」を気軽に訪ねていただける新たなコースを設定します。
- 植栽整備が進む「竜田川まほろば遊歩道」も本格ルートとして設定します。

	名称	起点	ルート概要
既存	北部コース 千光寺・役行者と修験の道	元山上口駅	元山上口駅⇒生駒山口神社⇒清滝石仏群⇒揺るぎ地藏石仏群⇒千光寺⇒金勝寺⇒吉備内親王墓⇒長屋王墓⇒平群駅
既存	中部コース 十三街道と業平ロマン道	平群駅	平群駅⇒長屋王墓⇒吉備内親王墓⇒三里古墳⇒つぼり山古墳⇒藤田家住宅⇒白山神社⇒桃源郷⇒杵築神社⇒十三塚⇒街道の石仏・道標⇒竜田川駅
既存	南部コース 霊峰信貴山と戦国の夢街道	竜田川駅	竜田川駅⇒椿井西入口石仏⇒椿井井戸⇒宮裏山古墳⇒椿井春日神社⇒椿井城跡⇒平等寺春日神社⇒烏土塚古墳⇒平群神社⇒平群中央公園⇒石床神社⇒石床神社旧社地⇒御櫛神社⇒信貴畑勸請の地・樽観音石仏⇒信貴山朝護孫子寺⇒信貴山城跡
既存	平坦コース 平群の里と歴史探訪の道	竜田川駅	竜田川駅⇒烏土塚古墳⇒石床神社旧社地⇒石床神社⇒平群中央公園⇒平群神社⇒椿井西入口石仏⇒椿井井戸⇒宮裏山古墳⇒椿井春日神社⇒椿井城跡⇒平等寺春日神社⇒道の駅「くまがしステーション」⇒船山神社⇒三里古墳⇒長屋王墓⇒吉備内親王墓⇒紀氏神社／上庄ホテルの里公園⇒平群駅
新規	竜田川まほろば遊歩道	東山駅	東山駅⇒馬鋤淵を入口に竜田川沿いを散策する水辺のコースです

※散策ルートマップはP12参照

②サイクルルート

- シェアサイクル拠点を各駅、観光スポットに配置し、2次交通手段としてシェアサイクルを活用した町内周遊コースを設定します。
- WEST NARA 広域観光推進協議会加盟市町村と連携した広域周遊ルートを設定し、町内にとどまらず近隣の観光スポットからの誘客を促します。

4. 広域ネットワーク対策

①基本的な考え方

- 「歩く=ウォーキング」「サイクリング」を切り口に周辺地域の歴史・自然資産と連動することで、平群町へのウォーキング・サイクリング流入者数拡大を図ります。
- 近隣地域・平群町共にまったく新しいルートを開発するのではなく、それぞれの地域で既に設定されているルートを連動していきます。
- 平群町の椿井城跡・信貴山城跡を対象に奈良県全域の山城や戦国・江戸時代初期の史跡や観光ポイントと連動した回遊型の広域ネットワーク形成に取り組み、話題性を喚起します。

【ネットワーク案】

A)大阪府とのネットワーク

- 生駒山系を挟んで大和と河内の物語の舞台を活かし、平群町への観光客誘致を目的として、広域的な市町村連携によるロゲイニングやデジタルスタンプラリーなどの周遊施策を実施。

B)近隣市町村とのネットワーク

- 近隣市町村の観光資源を活かし、広域連携事業を推進することで、平群町への観光客誘致を図ります。
- 生駒山系広域利用促進協議会、WESTNARA広域観光推進協議会などによる連携事業を推進。

C)「大和の戦国」ネットワーク(キャンペーン)の推進

- 奈良県内の山城(高取城、龍王山城、宇陀松山城)や戦国から江戸時代初期にかけての史跡などと連動し、複数市町村連動の「大和の戦国」ネットワークの推進。
- 山城跡など各史跡が所在する市町村と共同でキャンペーンを展開。
- 交通事業者(鉄道事業者に加えバス会社)に協力を働きかけ、共同のキャンペーン開催や広報協力を得ることも計画。

第10章 「広報PR」の展開戦略

1. インバウンドを意識した情報整備

①インバウンドの動向

訪日外国人旅行者は令和6年に年間で 3,687 万人と過去最高を記録しており、訪日外国人旅行消費額についても 8 兆 1,257 億円（2019 年比 68.8%増）と過去最高を更新しています。国においては、訪日外国人旅行者について 2030 年に 6000 万人、消費額 15 兆円の目標を掲げています。奈良県においては 2037 年に 700 万人、消費額 2000 億円を目標値としており、今後ますます増加すると見込まれるインバウンド需要に対して、ホスピタリティの向上は不可欠です。

②情報の多言語化

訪日外国人の訪問地として選択される地域となるよう、多言語表記による観光情報の公開を進めます。

- 使用言語は、英語を基本とします。英語以外の表記が望ましい場合はその他言語による表記も検討します。
- 視覚的な図による表現で内容の伝達を直感的に行うことができるピクトグラムを活用も有効であり、特に「禁止」や「注意喚起」の表示には積極的に表記します。

多言語化対応を必要とする対象(例)

- ・平群町観光パンフレット(デジタル英語版あり)
- ・その他各種パンフレット
- ・平群町観光ホームページ
- ・道標・案内看板
- ・観光施設や観光スポットの案内表示
- ・SNS 投稿

③コミュニケーションの多言語化

外国人観光客とのコミュニケーションを円滑にするため、タブレットやスマートグラスなどのデジタル機器を整備し、翻訳アプリ等の活用を進めます。

- 信貴山朝護孫子寺、千光寺、各種行事、イベントにおいて外国人観光客とのコミュニケーションを積極的に行える環境を整えます。
- 観光ボランティアガイドの会等が外国人観光客を受け入れることができるようデジタル機器の貸し出しやサポートを行います。

2. 「平群ブランド」ポスター・チラシの発信

広報展開の基本ツールとして「平群ブランド」ポスターを制作しています。平群ブランドが支える地域資産の多彩性を印象深く訴えることを目的に、単一ポスターではなくシリーズポスター化をしています。

町内における施設やシティプロモーションコーナーでの掲出を継続的に行い、町外の催事やイベントでの掲出の機会を増やしていきます。

■ポスター・チラシ例



※農産物に加え加工品や景観、史跡なども「平群ブランド」認証の対象



3. 地域資源を活かしたイベントで話題性を向上

「歴史」や「農産物」など、地域資源を活用したイベントを積極的に実施します。

「楽しい」をベースにした展開により関心と話題性を高めると共に、平群の魅力(平群ブランド)をイベントを通じて体感・体験していただき、こころとからだで理解していただきます。

①住民協働による「へぐり時代祭り」の開催 ※第6章参照

平群町の歴史を彩るさまざまな歴史人物をダイナミックな歴史絵巻で紹介する「へぐり時代祭り」を住民協働で開催します。また、より強く幅広い発信力を兼ね備えたイベントとしていきます。

②史跡・文化財を活かしたイベントの開催 ※第6章参照

平群町の誇る文化財を活用したイベントを実施することで、平群町の豊かな歴史を訴えます。また、文化財の著名さを利用し話題性と集客に繋がります。

③農を活かしたイベントの開催 ※第7章参照

平群町の秋の催しとして定着している「へぐり秋の収穫祭」の実施内容や実施場所を拡大し、今よりも強く外部の方々に「平群町の農産物」を訴えるイベントとして発展させます。戦略農産物を中心とし、農業体験や食の体験ができるイベントを検討していきます。

④「単線」を活用したイベントやキャンペーンの開催 ※第8章参照

豊かな自然環境の中を走る「単線」の良さを売り出すイベントやキャンペーンを計画します。「美しい風景」の中を走る姿に着目したフォトコンテストや、「車窓から見る」平群町の田園風景に着眼したイベントなど、実施に当たっては、鉄道事業者との連携を図ります。



4. 産学官の連携

民間企業や地元大学との連携により効率的な広報展開を模索します。

企業姿勢として地域情報を収集発信しているメディアや、平群町という地域が活性化することでメリットを享受できる企業などとの広報協力関係の構築を積極的に行います。

①公共交通機関事業者との連携

- 近畿日本鉄道やJR西日本、奈良交通など、公共交通機関事業者に広報協力さらには共同事業を依頼します。
- 観光事業としての具体的活動をプレゼンテーションし、広報ポスターの掲出やチラシの設置への協力を依頼します。
- 交流者の平群町に対する興味関心を高め、来訪者の増加を公共交通機関事業者の旅客収入拡大に結びつけることで、企業の積極的な協力を引き出します。

②地域メディアとの連携

- 地元ケーブルネットワークやラジオ局、奈良の情報誌などに協力を依頼し、積極的な広報連携を図ります。
- 地域情報チャンネルや雑誌内のイベント情報欄などへの「平群町情報」の取り上げ・掲載をタイミングの良い情報提供により実現します。

③町内宿泊施設との連携

- 亀の井ホテルなど、町内宿泊施設と連携した広報の充実を図ります。
- 各宿泊施設との広報連動や、宿泊客へのお土産サービスへの地域特産品の提供や、収穫体験の場を提供した宿泊パックの開発など、幅広い連携を図ります。

④地元大学との連携した資源整備・開発

- 大学と連携したブランド農産物の開発やマーケティング協力による特産商品の開発などを積極的に進めます。
- 大学の「知」の活用はもちろんのこと、大学の協力による取り組みを広くアピールし、広報力を高めます。

⑤メディアとタイアップした個別資源の整備

- 農産物を活用した特産品の開発において、メディアタイアップ商品の開発を検討します。

卷末資料

資料1 平群ブランド戦略基本方針

1. 平群ブランド

①平群ブランド趣旨 ※オフィシャル説明文

大阪からわずか一時間のこの地に、
四季折々のこころ癒される風景や
美味しく品質のよい農産物が育てられていること、
春夏秋冬の色彩や音色を楽しむくらしがあること、
古代から中世まで幅広い歴史があることは、あまり知られていません。

住んでいる人がもっとこの地の素晴らしさを実感し、
都市に住んでいる人がもっとこの地に触れることができたならば、
すべての人々はもっと幸せになり、この地ももっと豊かになるはずです。

平群ブランドは、
平群ならではの魅力と強みを
この地でくらすすべての人に知ってもらい、この地を慈しむ心を育み、
より良いものとするための「活動」を創り出すものです。
そして、
昔ながらの魅力と新しい魅力を
より多くの町外の人に継続的に発信し提供しつづけることで、
「平群のものだから買ってみよう」「平群に遊びに行ってみよう」そして、
「平群にいつか住んでみたい」
その心を育むものです。

平群ブランド戦略とは、
自然、歴史、農産物、くらし...
平群が持つすべての魅力において
地域らしい強みを育み発信しつづけることで、
すべての人々にとって「平群」を魅力的なまちにすることを目指すものです。

②平群ブランドコピー

山のぽっけ HEGURich

③平群ブランドロゴマーク



④平群ブランドコンセプトコピー

古より「平群谷」と呼ばれるこの地は、
母の胸にいだかれた赤子のように、
大地の^{たなごころ}掌にそっと優しく包まれてきたように、
四季折々に優しい表情をたたえる丘陵に囲まれた
豊かな地であるが故に、
人のこころとからだに大切なタカラモノが、
今もいきいきと息づいています。

いつもいつまでも笑顔で幸せに。

「山のぽっけ HEGURich」

⑤ブランドコピー意図

「山のぼっけ」は、
矢田丘陵と生駒山系に挟まれたまちの特徴を表し、
「ぼっけ」は、「平群谷」を優しく表現しています。

「HEGURich(ヘグリッチ)」は「HEGURI」と「Rich」の造語で、
「山のぼっけ」で育まれた自然の豊かさ、歴史の豊かさ、農産物の豊かさ、
そして、人と人のつながりとこころの豊かさを表現しています。

「山のぼっけ」という「田舎」を想起させる表現に
「HEGURich」という「都会的」な表現を組み合わせることで、
都市圏からわずか1時間の地にある「豊かさ」に出会う喜びを表しています。

⑥ブランドロゴマーク意図

二つのラインは矢田丘陵と生駒山系を、
中央のサークルは竜田川を表し、
丘陵に守られ慈しまれてきた地域の「豊かさ」を表現しています。

太く跳ねるようなラインと可愛く明るい字体は、
未来に向かう「躍動感と元気さ」を表現しています。

グリーンは自然、ブルーは歴史、ライトグリーンは農産物、オレンジはくらしなど、
カラーは平群を形成する「魅力」を象徴しています。

⑦運用カラーバリエーション案

1 基本



- カラー: DIC2560 (C82 Y23 M86)
- カラー: DIC2165 (C61 Y7 M20)
- カラー: DIC162 (Y57 M74)
- カラー: DIC2586 (C76 Y26 M8)
- カラー: DIC90 (C42 Y3 M80)
- カラー: DIC164 (Y45 M81)
- カラー: BK100

2 自然/景観



- カラー: DIC2560 (C82 Y23 M86)

3 歴史



- カラー: DIC2165 (C61 Y7 M20)

4 農産物



- カラー: DIC90 (C42 Y3 M80)

5 暮らし



- カラー: DIC162 (Y57 M74)

バリエーションA



- カラー: DIC164 (Y45 M81)

バリエーションB



- カラー: DIC480 (C21 M60 Y26)

バリエーションC



- カラー: DIC3 (C6 Y5 M32)

バリエーションD



- カラー: DIC2586 (C76 Y26 M8)

バリエーションE



- カラー: 青金 (DIC620)

3. 「平群ブランド」の個別資源への適用基準

①基本的な考え方

平群ブランド「山のぼっけ HEGURich」は自然・歴史・農産物・くらしをはじめとする平群町が有する資源に共通する魅力を明文化したものです。

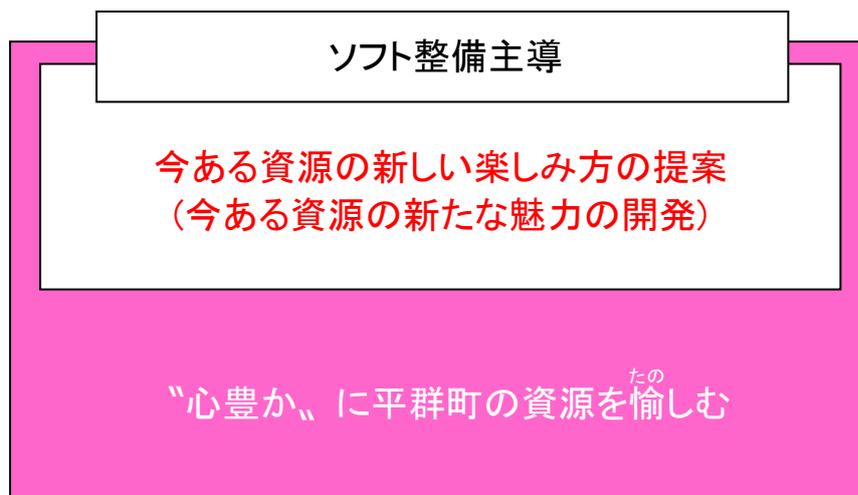
それ故に、平群町を構成する個別資源一つひとつが、平群町民・交流者を問わず全ての人々の心とくらしを豊かにするものとしなければなりません。

「自然」「歴史」「農産物」「くらし」などの個別資源への適用(「平群ブランド」を踏まえた上での個別資源の整備)においては、「**ハード整備主導**」(新たなものを作る**こと**)を主眼とするのではなく「**ソフト整備主導**」(今あるものの**新たな楽しみ方の提案**=今ある資源の**新たな魅力の開発**)を主眼とした方向性を第一義とします。

平群ブランド認定については、「平群ブランド認定指針」に基づき運用しています。「平群ブランド認定基準」を個別設定し、継続的に「平群ブランド」の適用・使用に関するルールを維持管理していく委員会を組織しています。

個別資源への適用コンセプト

資源一つひとつが、全ての人々の心とくらしを豊かにする
〈山のぼっけのプレゼント〉



②各資源への適用方針

資源	ブランド適用コンセプト	
自然	<p>「平群谷」の景観を五感で^{たの}楽しむ、 豊かな地へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を「財産」「資源」として意識。 ○生駒山系・矢田丘陵に囲まれた環境そのものを資産化し活用。 ○平群谷の四季の表情の変化。丘陵に囲まれているが故に響く様々な音色。地域ならではの豊かさに気づきを与える。
歴史	<p>「歴史人物」たちの歴史物語を^{たの}楽しむ、 豊かな地へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「歴史の地」である奈良県に埋没しない、歴史性の発信で地域の特徴化を図る。 ○歴史資産があることよりも「歴史人物が躍動した場」としての価値を高める。 ○地域の歴史を彩る「歴史人物」に着眼した奥の深く心躍る歴史物語の発信。
農産物	<p>「農産物」に触れ・食する満喫する、 豊かな地へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の豊かさを発信する最大の戦略資源として「農産物」を位置づける。 ○自ら育てたり、収穫したり、その場で食したり、地域の「農産物」の体験性を拡大する。 ○自然環境の中での「人のいとなみ」の素晴らしさを訴える。
くらし	<p>四季の「くらし」をもっと楽しむ、 こころ豊かな地へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○春夏秋冬の豊かさと共にくらし地域の魅力を端的に発信。 ○地域環境や地域の特産品を用いて、四季ならではの取り組みを住民と共に楽しむ。 ○人が自然と共にくらす地としての素晴らしさや幸せさに接してもらう。
ネットワーク	<p>交流者それぞれの好みに合わせた、 豊かな楽しみ方へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○交流者の流入方法に合わせたおもてなしの充実。 ○交流者の好みや都合に合わせた平群町の楽しみ方ができる細やかなルート設定。
広報PR	<p>「平群ブランド」を、 より魅力的に表情豊かに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域イメージ」の訴求を広報PR戦略の基本とする。 ○「押し売り」的な一方的な情報発信ではなく、生活者がそれぞれの好み・嗜好に合わせて自ら情報を選択受信できるアナウンス(案内)を情報発信の基本とする。

資料2 住民の町に対する意識（主に観光に関する部分）

居住期間の長短に関わらず、平群町の魅力に対する認識は共通であり、それは表層的なものではなく、「五感で感じる」豊かさ・贅沢さ・癒しと云った情緒的・精神的なものと理解できます。ただ、魅力に対する評価は高いものの、それらが外の人々に対して「自慢できるものである」とまで認識が至っていない傾向があります。

① 居住・生活の評価

長期居住者、短期居住者共に、自然に溢れる田舎でありながら都会へのアクセスの良さに対する肯定性は非常に高いものがあります。

日常消費・買い物・病院などの生活に密着した必要施設については充実しており、車交通の利便性から不便さを感じる声は少ない傾向にありました。

- ・自然が多く、ゆったりとした田舎暮らしをしながらも、大阪や京都へアクセスが良く、スーパーや医療機関、ドラッグストア等生活に必要な店がまとまっていて便利。
- ・奈良市からも大阪からも近いのに、とても自然が残っている。
- ・168号線沿いに商業施設が増え、不便というイメージを消すほどの快適な田舎暮らしができ、大阪にもアクセスしやすくすばらしい環境だと感じる。
- ・王寺と生駒に囲まれているので交通量も多く、スーパーも多いので町に来る人も多い。

② 平群町の魅力に関する認識

緑が多い、自然が豊かであることの評価はもちろんのこと、農産物に恵まれ歴史資源が多いことに対しての回答が多くみられました。

特に小菊、いちご、ぶどう、バラといった品目の生産が盛んであること、信貴山朝護孫子寺・千光寺・椿井城跡などの史跡があること、谷の地形による自然の風景があることが他地域との差別化できる魅力であると認識しています。

農業が盛んな地域で、小菊、いちご、ぶどう、バラといった品目が盛ん。

道の駅大和路へぐりで新鮮な野菜が買える。

道の駅大和路へぐりも活気があり、いちごの時期は県外から古都華を県外から買いに来られる方が多くにぎわいがある。

町内で一番魅力のある観光地としては信貴山朝護孫子寺だと思う。

椿井城跡は道の駅大和路へぐりの近くにあり嶋左近の居城とも言われていて観光地として魅力がある。

⑤観光推進方針への理解

「SNS やデジタルコンテンツを活用した魅力発信の推進」については、必要性に理解を示す回答がほとんどであり、「農産物の食と体験の推進」については、他市町村と差別化できる平群町ならではの魅力として農産物を挙げる声が多くみられ、食と体験の推進について必要性を高く評価していました。「インバウンド需要拡大に向けた対策の推進」については、積極的な推進は必要ないという意見も見られましたが、日本国内で増加し続けているインバウンド需要に対応するため、まずは受け入れ態勢を整えていくことに対して一定の理解を得ることができました。

■平群町民の町に対する意識(主に観光に関する部分)

【アンケート名称】	住民意識ヒヤリング
【実施期間】	2025年2月14～28日
【実施方法】	アンケート回答形式
【実施対象】	平群町民(平群町居住者)
【参加者】	合計12名(6名×2グループ)
<グループA>	平群町に20年以上居住している20代以上の男女 20代女性、30代男性、40代男性(2)、60代以上男性(2)
<グループB>	10年以内に平群町に転入して来た20代以上の男女 30代男性・女性、40代女性男性(2)・女性(2)

平群町観光基本計画



令和8年4月

【発行】 平群町

【編集】 平群町 観光産業課

〒636-8585

奈良県生駒郡平群町吉新一丁目一番一号

TEL :0745-45-1001(代表)

FAX :0745-45-0211

E-mail :sangyo@town.heguri.nara.jp

URL :<http://www.town.heguri.nara.jp>